

平成 25 年度学校評価実施計画

学校名 大分大学教育福祉科学部附属特別支援学校

前年度評価結果の概要	①授業及び指導計画において、高い評価を受けたものの、授業連絡カードの記述量や内容について改善が必要と指摘され、改善に取り組んだ。その利用する価値と作成する負担がアンバランスであるため、さらなる改善に取り組む。 ②進路指導に対する評価が低いため、特に小・中学部の保護者が子どもの将来をイメージできるような取り組みが必要である。特にキャリア教育の充実が求められる。 ③学校事故および津波などの災害に対する取り組みをさらに進め、安心・安全な学校づくりを進める。 ④学校HPの充実などの取り組みは一定の評価をうけている。さらに開かれた学校づくりのため、教育研究における情報発信に力を注ぐ必要がある。 ⑤学校における研究と他の学校のニーズとの差があり、地域のセンターとしての役割を十分に果たせていない。
------------	--

学校教育目標	中期目標	重点目標
個人の尊厳を重んじ、児童生徒一人一人の心身の発達に応じて、小学部、中学部並びに高等部の各課程を通して、調和のある一貫した教育を行い、自己のもつ能力や可能性を最大限に伸ばし、身近生活の確立をはじめ、集団生活、社会生活、職業生活への適応性を高め、自立的、主体的な生活ができる人間の育成をめざす。	1 安全・危機管理意識の重要性・日常性と校舎改修 2 研究・指導方法の改善 3 教材等の開発についての情報発信の継続 4 小学部・中学部・高等部の一貫した自立・社会参加に向けての指導の充実 5 特別支援教育のセンター的機能の充実 6 県との人事交流の適正化	1 安全・危機管理意識の重要性・日常性と校舎改修 2 一人一人の教育的ニーズを的確に把握し個別の指導計画をもとに指導実践・評価・振り返りを行い、確かな力をつける 3 職員一人一人が学校課題を意識し、学校組織として課題解決に取り組み、保護者・地域・関係機関・大学と共働・協働する

PL:プロジェクトリーダー、SL:サブリーダー

重点目標	達成(成果)指標	重点的取組	取組指標	PL SL	
1 安全・危機管理意識の重要性・日常性と校舎改修	○安全に配慮した学習環境が整えられており、子どもたちが落ち着いて行動している ○ヒヤリハット事例を共有し、同様の事案がおこらない ○年間を通じて、学校安全に関する計画的な指導がなされている ○校舎改修に伴う工事が、児童生徒の動線や安全に配慮したものとなっている	○出席している児童生徒と教師の人数を確認し、危機がおきたとき、どのように対処するかシミュレーションする(特に校舎改修工事期間における取組を強化する) ○学校安全計画を活用し、学部ごとに設定した安全指導を行うとともに、日常的に安全に配慮した学習環境を設定する ○ヒヤリハット事例や全体ケース会議、個別ケース会議を定期的に設定し、すべての教員において情報を共有し、対応する	○すべての教員が、朝5分程度その日の活動を想定し、場面設定や行動を確認し、安全な学習環境を整えとともに、緊急時における冷静な判断と対応ができるよう備える ○すべての教員が、授業計画を行う際、学部の安全計画を確認し、安全指導を行うべき内容の指導に留意し、あらゆる場面での指導すべき事項の設定および安全計画の見直しを図る ○軽微な事故に至らない事象を把握し、ヒヤリハット報告書を作成する ○ケース会議をすべての児童生徒に対し実施し、職員会議や全体ケース会議の場において報告し、情報の共有をする	PL: 学部主事 SL: 学部主事、学級主任 PL: 保健主事、学部主事 SL: 学級主任 PL: 保健主事、生徒指導主事 SL: 学部主事、学級主任	
	2 一人一人の教育的ニーズを的確に把握し個別の指導計画をもとに指導実践・評価・振り返りを行い、確かな力をつける	○すべての児童生徒を対象にしたケース会議が定期的実施され、児童生徒の教育的ニーズについて、保護者や関係者と共有している ○教育的ニーズに応じた指導内容を設定し、指導することにより、児童生徒が自己決定をして、積極的に周りとかかわりを持ち行動している ○児童生徒の障がいの特性や発達段階に応じた指導がなされている	○ケース会議を指導に活かし、児童生徒のキャリア発達を促す ○学校研究の充実を図り、公開研究発表会を実施するとともに、全国の動向を把握し、実践的指導力の向上を図る ○教育課程の見直しを行い、児童生徒の確かな「生きる力」を身につけられ、小学部・中学部・高等部の一貫性のある編成を行う	○一人の児童生徒に対し、1年に1回以上ケース会議が実施され、保護者・学校・関係機関が同じ課題に向けた取り組みを行う ○公開研究発表会への授業づくりをとおして、一人一人の授業力の向上を図る ○教諭の一人一回県外研修、全員による県内授業研究会の参加をとおして、県内外の動向やニーズを把握し、学校研究に反映する ○7月に26年度の編成基本方針を決定し、2学期末までに教育課程の編成作業を終える ○教育課程編成担当者会議を実施し、指導の形態の考え方の一貫性をはかり、キャリア教育全体計画を見直す ○心理検査等のアセスメントを実施し、得られた結果を効果的な指導支援に役立てる	PL: 生徒指導主事、学部主事 SL: 学部主事、学級主任 PL: 研究主任 SL: 学部主事、分掌主任 PL: 教務主任、生徒指導主事 SL: 学級主任
		3 職員一人一人が学校課題(子どもの育成と学校力の向上)を意識し、学校組織として課題解決に取り組み、保護者・地域・関係機関・大学と共働・協働する	○児童生徒が積極的にあいさつしている、集団の中で役割を果たしている、自分のすることを確実にし、やりがいを感している ○各学部で各年齢段階に応じた卒業後の生活に必要な力(小: 基本的生活習慣の知識・技能が身につけている 中: 集団行動の中で、自分の思いや意見を適切に表現する 高: 働く意義について、理解を深め自分なりの価値観や勤労観を持っている)が身につけている ○教師一人一人が専門性の向上を目指した取り組みを行っている	○児童生徒の自主的、実践的な活動が行えるような集会活動及び学校行事の企画・運営を行う ○学部・分掌ごとに指導内容と小学部段階からのキャリア教育をより意識した取り組みをすすめる ○進路情報を積極的に発信し、キャリア発達に関する情報提供を行い、保護者や児童生徒の主体的な進路選択を促す ○指導力向上をめざした授業研究・授業実践を積極的に行うとともに、全員が1回は指導案を作成するとともに、実習生の指導においても効果的で効率的な支援を行う ○公開研究発表会のプログラムや実習生指導などにおいて、大学との連携をはかり、事前協議や事後協議や意見交換を積極的に行う	○児童生徒会を中心に会を進められるよう段階的な支援をおこなうとともに、児童生徒が計画の一部を担当したり、運営に協力する活動を取り入れる ○キャリア教育全体計画を活用し、各学部・学年における指導内容を確認し、具体的な指導を行う ○進路だより、メール配信、HPを活用した情報発信を強力に進めるとともに、保護者向けの講演会や座談会、情報交換会などを実施する ○すべての教員が授業研究会に参加し、授業や研究に関する取り組みを共有し、研究発表会や実習生の指導にあたる ○大学の教員と学校研究に関する意見交換をおこなうとともに、公開研当日のシンポジウムの内容をともに検討し、有意義なものになるよう協議し、実施する